

【宇治市】 校務DX計画

1. 趣旨

宇治市では、平成24年度より順次、校務支援システムを導入し校務の情報化を図ってきました。また、令和2年度にはGIGAスクール構想に基づき、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの活用など、新たな時代に対応するICT環境を整備し、ICTを活用した教育の推進に取り組んできました。

業務が多様化・複雑化する中、教職員の働き方改革を推進するためにも、整備したICT環境を活かして、効率的な校務運営が求められています。

本市では、令和6年4月に作成した「宇治市教育DX推進計画」に基づき、校務DXに取り組み、業務を効率化することで、児童生徒と向き合う時間の充実を図ります。

2. 宇治市における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、各学校と連携しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

（1）GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DX化チェックリストによると、教職員が作成した教材等のクラウド上での共有や児童生徒の宿題におけるクラウドサービスやデジタルドリルの活用は進んでいる一方、保護者との連絡におけるクラウドサービスの活用については、十分に進んでいない状況です。

（2）今後の校務支援システムの在り方検討

校務支援システムについては、京都市町村教育情報化推進協議会のもと、京都府全域で統合型校務支援システムの共同調達を進められており、本市においても、共同調達のシステムへ移行し、令和7年度から運用を開始する予定です。

現在、校務は学習とネットワークが分離されたオンプレミス環境で運用しており、学習系データと校務系データの連携に課題があります。この課題を解決するため、既存のネットワーク機器の更改時期や他自治体の事例も踏まえ、校務系と学習系ネットワークを統合したクラウド環境での運用を目指し、教職員の働きやすさと児童生徒の学びの充実につながる環境整備を検討する必要があります。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取組を以下のとおり進めます。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

業務の効率化のため、校務におけるクラウドサービスの活用事例について研究し、教職員間の情報共有やペーパーレス化を促進するなど、業務効率化の推進に努めます。

令和7年度に保護者連絡用ツールを導入し、保護者の利便性向上に努めるとともに、校務支援システムともデータ連携することで、重複する転記作業を削除し、業務の効率化を進める他、令和7年度から運用を開始する校務支援システムでは帳票の電子保存を採用することとし、押印の廃止に取り組みます。

また、クラウドサービスの活用等により、FAXでのやり取りを見直すなど、教職員の業務改善に努めます。

(2) 校務系・学習系ネットワークの統合等

情報セキュリティ対策に充分に留意しながら、既存のネットワーク機器の更新時期も踏まえ、校務系と学習系のネットワーク統合等、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。